

特集02 就職を知る

就職事務部長 明比 卓さんに聞く!

◎ 最初に就職課について紹介してください。

本学の場合、一昨年までは就職部就職課でしたが、昨年から教務部と一緒に、学修進路支援部としてスタートしました。学修進路支援部は、教務課、学部大学院事務課、就職課の3つの課となり、学問と就職が結びつき、就職も教育の一環として捉えることとなりました。今大学では、「キャリア教育」の必要性が問われています。すでに、湘南ひらつかキャンパスの経営学部では、「キャリア教育」をカリキュラムの中で実施しています。2006年からは今の社会情勢にのつとった形で全学部「キャリア教育」を実施していく合意が出来ています。その中で就職課は、学生の出口の部分、卒業後の進路を決定するまでの支援をさせていただいております。

◎ そのキャリア教育のカリキュラムが横浜キャンパスに無いのはどうしてですか？

従来は学問と就職活動が違うものだと考えられてきました。学問というのは、それぞれ先生たちの専門分野があり、それを学生たちに伝えて勉強してもらおうことです。就職というものは、全て個人責任でやっていくものであって、社会に出て働くことが大変であることは誰もが知っていることです。ところが、最近は卒業後の学生の選択肢が増えていきます。また、採用の選考方法が多様化してきていて、企業が学生に求める質というのがものす

ごく高くなってきています。そこで企業から言われるのが「仕事をしたい」という気持ちが伝わってこない」「就職観が欠如している」ということを言われます。私たちが学生の頃は、4年生になってから就職活動を始めれば良かったのが、今の学生たちは3年生の秋か



就職事務部長

明比 卓さんに聞く!

ら就職活動を始めなければいけません。当然その時点で意識が高いはずが無く、まだまだ就職は先のことだと思っています。ところが、会社としては早く意識を持っている人間は、優秀な人間だと見てそういう学生を採用します。その時期にターゲットを合わせ

て、将来に向けてしっかり考えてほしいということ、早い時期からキャリア教育の必要性が言われてきています。ただ、本学の横浜キャンパスにおいては、未だに学問とキャリアというものが密接になっていません。一部の先生はしっかりと考えてくださるが、大半の先生はそこまで学問的な要素として就職を位置づけしていないという部分があると思います。

◎ 今の就職活動の早期化、就職難をどう思われますか？ 今後どうなると考えていますか？

就職活動の早期化というのは、国が心して取り組まない限り止めることは出来ません。今は企業と大学の間で就職活動の早期化は良くないという事は言われています。ただ採用する側としては少しでも優秀な人間を採用したいと考えています。もし仮に、神奈川大学が「うちの学生は、早い時期(卒業年次以前)には一切選考をさせません」と言ったら、学生たちが困ります。だから、私たちはそこまではできません。そうすると、日本の大学と日本の企業が話し合いをしてペナルティを設けない限り、この早期化は絶対に止まりません。ただ、今後さらに早期化するとは考えていません。3年生の秋から準備し、そこである程度学生達がしっかりとした就職観を持っていれば十分だと思います。

◎ 神大生に足りない部分を教えてください。

毎回様々な企業と会わせて頂いて、年間で何千人という方とお会いして色々話を聞いています。その中で「うちの学生は一般的にどのような印象がありますか？」と聞くと、多くの企業が「おとなしい」と答えます。そこが神大生に足りないところなのです。つまり、自分の殻の中に閉じこもってしまい、自分をうまく相手に伝えられない人が増えてきているという事なのです。夢というものをしっかりと持ち、その夢に向かって自分ができるかできないかを躊躇するのではなく、その夢を実現しようとする勇氣が必要

になってきます。神大生には真面目で良い学生が多いです。でも社会に出て、会社から見てもそういう人間を採用するかというと、必ずしも採用する訳ではありません。自分から何かを取りに行く姿勢、つまりチャレンジ精神が必要となります。それがないと社会では通用しません。

◎では逆に、神大生の良い部分はどこですか？

神大生は、学問に対するまじめさを持っていて素直だと思います。だから、もう一歩殻を破ってくれば、東京六大学に負けない学生達なのです。実は、神奈川大学の求人数は他大学に比べ多いのです。今は約6500社、多い時だと1万社を越えていた時代もありました。先ほども話したように、様々な企業とお会いしてきましたが、企業側から求課するというのが非常に多いです。それは企業が神大生を求めているからです。なぜ、神大生を求めているのかというと、OBやOGが多く、活躍されているからというところがあります。「神大生だからこそ欲しい」という企業は多くあります。だから、これから卒業していく学生たちに対して、付加価値をつけてあげなければならぬのですが、これまでの神奈川大学ではそれを上手に引き出すことが出来ませんでした。でも社会へ出ると卒業生たちは光っています。それがうちの学生の気質かもしれませぬ。だから、逆に1年生からキャリア教育を実施することによって、入社後に光るのではなく、在学間、就職活動の時に光る人間を創れるのではないかと考えています。

◎学生たちをご覧になって、どうすれば殻を破れると思われませんか？

積極的以外(社会)へ出てください。例えば、就職活動において他の大学生と同じことをしていても仕方がないと思います。今の学生たちはインターネットで企業を調べていますが、逆にインターネットを使わず直接企業へ行く程の勇気と行動力を身に付けて欲しいです。日本人というのは「これを聞いたら恥ずかしいんじゃないかな？」と思う国民性があるから、なかなかコミュニケーションが上手にとれず、勇気と行動力が身に付きにくいと思います。それを神大生が全員でできるようにすれば、素晴らしいものになると思います。例えば先生の授業だって、全てが楽しい授業であるとは限りません。しかし、「1つぐらい自分の頭に残るものを盗んでやる」という気持ちで講義に取り組めば、授業がさらに面白くなると思います。ただ単位だけ取れば良いということではなく、自分の知識として深めていくべきだと思います。そうすれば結果がついてきます。このような前向きな心を学生たちに持っていて欲しいです。

◎インターンシップについて

少しずつインターンシップに参加する学生は増えてきています。経営学部ではカリキュラムの中で「実体験社会研究」という科目で実施しています。一昨年末には参加する学生は40名程度だったのですが、昨年は90名を越えました。就職課では、カリキュラムにインターンシップを組み込まれていない学部学科に対して、オープンにインターンシップの情報を流しています。例えば、昨年からは始まった横浜商工会議所が行っている「横浜インターンシップ推進制度」や、日本経営者協会の会員企業のインターンシップ情報が掲載されているインターネットサイト「ハイパーキャンパス」を紹介しています。そして、就職課が実施しているインターンシップ準備講座の中では「インターンシップとは何か、ビジネスマナー、インターンシップでどのようなことを学んでくるのか」ということを指導しています。昨年、就職課を介してインターンシップに参加した学生は50名くらいです。インターンシップに参加した学生は、自分の未熟さや社会の厳しさ、ビジネスマナーの厳しさを肌感じて大学に戻ってきます。こういった学生は、以降の学問に取り組む姿勢が変わってきます。学問に対する目標が出来るわけです。ぜひ、

◎この先就職活動はどう変わっていくか分かりますが、これから就職課として、学生に対してどのような取り組みをしようかと考えていますか？

私は就職活動は決して楽にならないと考えています。それは企業の体力的なものが落ちてきて、数年前のバブル以前の頃と比べれば企業が社員を育てる時代ではなく、自分自身で自分を育てる時代になってきているからです。だから、逆に1つの会社で定年を迎えるのではなく、能力がある人間はさらに条件の良い会社に移ることが出来る社会になってきています。



インターンシップ制度を多くの学生たちに利用してもらいたいです。



それから、社会で成果主義というものが広がってきています。以前は年功序列制度が一般的で、年を重ねればそれなりの地位についてお金を多くもらえた時代がありました。しかし、今は成果主義によって老若男女問わず、成果を出した人間には手厚く対応するという時代になってきています。だから、その時代に合ったモノの考え方ができる学生をもっと創っていかねばいけないというのが、大学の宿命だと考えています。学問でそれが教えられるかもしれないですが、一番良いと思うのは学問と社会が結びつくことです。例えば、この先生のこの科目を取れば自分にはこういう力がついて、社会にはこういう風に使えるよ、というように明確になれば、学生はさらに学問に身が入

ると思います。しかし、今はそこまで至っていません。高い学費を払っているのだから、みんな薄に単位を捨ててしまうのではなく、前向きに物事を考え、授業に参加している時は、何か1つ知恵を盗むような意気込みを持ってください。そういう人間をもっと創りたいと考えています。それができるようにしたら、次々と内容が分かってくるから、今まで面白くないと思っていた講義が面白くなってくるかもしれません。要するに自分の気持ちが大事なのです。ネガティブに考えるのではなく、ポジティブに考える学生を増やしていきたいです。そのために、今1年生からポジティブ志向になる講座を実施しています。ただ残念ながら、受講生が少ないです。それを私たちはもっと広く浸透させ、受講生を増やし、内容を理解してもらいたいと思います。

◎最後に4学年それぞれの学年の学生達にアドバイスをください。

新入生については、大学に入ってからやりたいと思っていた事を忘れないでください。2年生については、学生生活が面白くなってくる時期で、やりたいことは何でもできると思います。だから、学生時代にしかできないことを思いっきりやってください。学生にしかできないことをしつかりやるという事が一番大切かもしれません。例えば、長期休暇を利用して海外に行つてくるというように、学生時代にしか積めない経験を思いっきりやってください。そして、3年生になったら、夏休みまでは学生時代にしかできないことをやっていて良いのですが、真剣に「働くということ」を考えてください。答えを出すということではなく、取り組むということです。例えば、親父の背中を見てみるとか、親父と仕事の話をしてみるとか、初めのうちはそこからやってみてください。実際に、アルバイト先でもアルバイト仲間とばかり話すのではなく、店長に対して「どのような仕事をしているのですか?」「なぜこの会社に入ったのですか?」という質問をしてみ

てください。要するに、社会に触れて欲しいということです。4年生は残り1年しかないわけだから、後悔しない就職活動をして、決まるまであきらめないでください。決まったら思いっきりもう1回遊んでください。それで晴れて卒業し、社会に出て欲しいです。全体的に言えるのは、昔から言われているのと同じで、「よく学びよく遊べ」ということです。この部分を思いっきりできるのは大学時代だけなのです。

◎ありがとうございました。

